

## 書評

梅野正信・新福悦郎・蜂須賀洋一著『公民科教育と学校教育  
人権と法で深める探求のテーマ 78』（三恵社，2021，169頁）  
ISBN- 9784866933672 ¥1,900（税別）

本書は、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」を志向する教育と研修に資するために、高校公民科，教職の基本，人権教育の要点を，社会的課題をあげて，わかりやすく，総合的に学習できるよう構成されている。章立ては以下のとおりである。

### I 公民教育のための探究テーマ

1 公民科と社会的課題，2 公民系教科・科目の成立と変遷，3 公民科目標の変遷，4 「公共」新設の背景と学習内容の特色，5 「倫理」「政治経済」改訂の特色，6 到達目標，7 教育実習，8 学習指導案の要諦（略案），9 学習指導案の要諦（正案），10 学習指導案の要諦（細案），11 授業づくりと教材づくり，12 新聞活用の方法，13 アクティブ・ラーニング，14 討論の技法，15 対立する権利，16 ディベート学習，17 模擬選挙，18 政治的教養と政治的中立性，19 評価の方法 20 司法参加と裁判員裁判，21 家事調停と検察審査会，22 デジタル変革，23 環境保護，24 基本的人権，25 権利と義務や責任の関係，26 職業選択の自由，27 子どもの権利に関する条例，28 子どもの保育を受ける権利，29 いじめ問題の学習，30 SNSによるいじめ，31 多様性を尊重する—SOGIの権利，32 環境問題の出発点（水俣病），33 障がい者差別解消の取組，34 民族としての誇り（アイヌの人々），35 脳死と死，36 戦争遺跡と平和学習，37 倫理教育と道徳教育，38 先人の哲学者思想の授業づくり，39 消費者教育

### II 学校教育のための探究テーマ

40 人権が保障される学校，41 総合教育会議と教育行政，42 教職の課題と人権の課題，43 人権課題と法の制定，44 教育関係者に不可欠な人権感覚，45 人権の国際的広がり，46 行政研修と自主研修，47 働き方改革，48 給与制度，49 労働者の権利，50 学校の責任を問う裁判，51 生徒が被告となる裁判，52 アカデミック・ハラスメント，53 インターネットによる人権侵害，54 教育の無償化，55 信教の自由と学校，56 子どもの最善の利益と不登校支援，57 自然災害時の緊急事態対応，58 大川小津波訴訟と安全確保義務

### III 人権教育を育むための探究テーマ

59 人権と人権教育，60 社会契約としての人権，61 生命と尊厳，62 責任と判断，63 日常生活に関連づけた学習，64 「協力的」「参加的」「体験的」な学習，65 人権教育と道徳教育の接点，66 感染症をめぐる差別と偏見，67 韓国・台湾等の人々と日本の国内法，68 生命の質，69 事例から学ぶ憲法の条文，70 被爆者と国籍，71 人権感覚をもって読み解く，72 Take a step forward（一歩前へ進め），73 レジリエンスを高める「対立」の学習，74 多様性への気づき「ランキング」，75 日本映画で深める同時代認識，76 映画で深める同時代史，77 映画で深める学校と教育の課題，78 映像と音声に触れる学び

本書は，豊富な資料が掲載されているため，資料を基に考えを深めることができる。例えば，「62 責任と判断」では，アメリカの哲学者ハンナ・アーレントの文章を取り上げ，「身の危険を予見しながらも，ユダヤ人をかくまおうとした人々は，なぜそのようなことができたのか」というアーレントの問いから，著者は，「思考」と「人権感覚」という言葉の意味について考察している。《発展》のコーナーでは，ホロコースト関連の映画を紹介し，アーレントの問いをもとに自分の考えをまとめるよう促している（真島聖子）

